

# ⚠ SW(スイッチ) 取扱い注意事項

製品を安全にご使用いただくために、2ページの一般注意事項とあわせてお読みください。

ご使用に際しましてご不明な点は、お客様相談窓口までお気軽にお問い合わせください。

お客様相談窓口 ☎ 0120-70-7215

## ご使用上の注意事項

- 製品仕様をご確認の上、ご使用ください。  
また、ご使用電圧、電流に合わせた製品の取付(絶縁距離の確保)、接続電線、プリント基板の銅箔パターンを考慮してください。また、接続する電線等につきましても、隣接極、取付パネル、その他の製品などとの間で必要な絶縁距離が確保されるよう、ご注意ください。
- ご使用の際には実装機器での作動をご確認の上、ご使用ください。
- 定格電圧、定格電流の範囲内でご使用ください。  
電流については、定格の7~8割以下でのご使用をお勧めします。(弊社製品定格は抵抗負荷での定格です)
- 弊社のスイッチは、社内基準等に準拠してその性能を定めています。ただし、負荷の種類(誘導負荷、ランプ負荷、モータ負荷等)、開閉頻度、使用周囲環境等により条件が異なり寿命等の性能に大きく影響しますので実使用状況下での確認を行ってください。
- 機器設計寿命以上の寿命となるようご使用ください。そうでない場合はスイッチの定期交換が必要となります。
- 商品によって、溶剤や油類に弱い性質のものがあります。場合によってはクラックや割れが発生することがありますのでご注意ください。

## ご使用環境について

- 高温、低温、多湿な環境、結露や氷結の発生する環境、直射日光の当たる環境でのご使用はできません。
- 水滴のかかる場所、水中でのご使用はできません。
- 塵埃等の多い環境、各種油、薬品(洗剤含む)、腐食性ガス等がかかる様な環境でのご使用はできません。
- 室内で使用する機器に使われるスイッチです。屋外での使用は出来ませんので、ご注意ください。

## 負荷の種類の注意点について

- 抵抗負荷…抵抗分のみの負荷で力率1の負荷。ただし、一般的には抵抗負荷の負荷であっても誘導、または他の要因を含むため、製品性能維持には製品定格電流の7~8割以下でご使用ください。
- 誘導負荷…リレー、モータ、ソレノイド、トランス等の場合、スイッチ開離時に大きな逆起電力によるアークにより、接点の消耗等が発生します。設計をされる際は、保護回路等による安全設計をお願いします。
- モータ負荷…モータ負荷の場合、種類にもよりますが3~8倍の起動電流が流れるため、アークによる接点の溶着が発生する恐れがあります。モータの起動電流値には十分ご注意ください。

- ランプ負荷…スイッチ投入時にフィラメント冷却状態において突入電流により、アークによる接点の溶着が発生する恐れがあります。突入電流値には十分ご注意ください。

## 負荷の種類別電流量の目安について

- 抵抗負荷でAC125Vを1とした時の各負荷での使用可能電流値比率の目安

電 圧	電 流 容 量			
	抵抗負荷	誘導負荷	モータ負荷	ランプ負荷
AC 125V	1	1/2	1/3	1/5
DC 12V	1	3/4	1/3	1/5
DC 24V	2/3	1/3	1/5	1/8
DC 30V	1/2	1/4	1/6	1/10
DC 48V	1/4	1/5	1/12	1/20

(あくまでも目安ですので、実負荷での確認をお願いします)

- 直流負荷の場合は、小負荷でも大きなアークを発生し、遮断不能になることもあります。ご注意ください。

## 照光式スイッチについて

- 照光式スイッチは、表示定格電圧でのご使用を必ず守ってください。尚、定格電圧以下でのご使用はネオン球の輝度の低下を招いたり、点灯しない場合もあります。ご注意ください。
- 端子間の耐電圧、絶縁抵抗を測定する場合は、OFF時に限ります。

## ハンダ付けについて

- 照光式スイッチの差込端子タイプの製品は、ハンダ付けを行わずに、適合するレセプタクルをご使用ください。また、レセプタクルの挿抜はこじらないようご注意ください。
- ハンダ付け端子タイプの製品については、スイッチをOFFの状態で行ってください。

## その他

- 操作部には必要以上の負荷をかけないでください。破損及び製品性能に影響を及ぼすことがあります。ご注意ください。
- パネル取付に際しては、最新の図面等を請求のうえご確認ください。また必要以上の締付けトルクをかけると破損する恐れ及び製品性能に影響を及ぼすことがありますので避けてください。
- 本体を持つてのナット締付けは行わないでください。内部に必要以上の負荷がかかり製品性能に影響を及ぼすことがありますので避けてください。
- ワンタッチ取付けの製品に関しては、取付孔及び板厚を必ず守ってください。最新の図面等を請求のうえご確認ください。
- 接続した電線に張力が加わらない様、接続電線の固定を考慮してください。